



踏み絵の深層

Ultimate Decision

永田円了

時は戦国の乱世、人々が救いを求めたのはキリスト教だった。信者の数は爆発的に増え、16世紀後半には、日本のキリシタンの数は30万人にも達したとされる。この布教の速さと広がり大きさは、我が国の権力者を脅かすに十分なものであった。弾圧が起こった。16世紀から17世紀の半ばまで、おびたしい数のキリシタン信者が殺害された。

この17世紀初頭のキリシタン弾圧をテーマにした遠藤周作著「沈黙」は、発行から半世紀を経た今も、強烈なインパクトをもって私たちの内面を刺激して止まない。今回の講座は、神の存在、背教の心理、キリスト信仰の根源的なテーマを三つの視点から読み解く。

視点その① 私たちの目；キリスト教は私たちにとって損か得か？ 異教は権力を脅かし、国民に危険をあたえるもの、だから取り除かねばならない。踏み絵を実行してこの邪教の信者を見つけ出し、追放（死罪）にしなければこの国は滅びる、と当時の権力者たちは考えた。まるでどこかの国の大統領の発想と同じではないか。しかし当時の封建制度のもとでは、反対は死を意味した。

視点その② 私の目；そのものに対して、あなたは どうする？ あなた自身は踏み絵を踏むのか踏まないのか。キリシタンであるあなたは、目の前の踏み絵を踏み、生きて背教のみちをゆくのか、それとも殉教を選ぶのか。生か死か、まさに究極の選択である。

視点その③ 天の目；いまあなたに何が問われているのか。踏むのか踏まないのかの二者選択の問題ではなく、踏み絵（十字架）とは何を意味しているのか、が問われていることに気づく視点。



元型・売春夫（婦）の闇と光

元型とは人の無意識に潜むエネルギーの源、心理学者ユングが名づけたものである。光と影が表裏一体となったこのエネルギーの塊は、私たちの人生の山登りを手助けしてくれる。ただし元型の手助けは決して生やさしいものではない。私たちがまず闇の中につき落とし、さあどうする、と問いかけてくる。人間の内部に潜む影に気付け、と迫るのである。

悪（闇）をとことんまで突き詰めると、神（光）が出てくる。神は悪魔をつくった。悪魔をつくることによって、人間は苦しむ。しかし、その苦しみの中で、信仰というものが善を産み出す（精神科医・加賀乙彦）。

“踏み絵”を踏むという行為は、背教を意味する闇の世界。しかしながら、闇に入るという行為があつて初めて真に光に向かおうとする意識とエネルギーが生まれるのである。逆説的真理はこのようにして人を導くのか。

<事例 DVD等>

遠藤周作著「沈黙」新潮文庫 1966年
 1971年制作日本映画・篠田正浩監督作品「沈黙」
 BS1 巨匠スコセッシ監督「沈黙」に挑む
 ～よみがえる遠藤周作の世界～
 BS1 「沈黙」が米国のユタ州大学の教材に
 作家・加賀乙彦／神が悪魔をつくった
 1973年米映画「幸福の条件」Indecent Proposal
 100万ドルで奥さんと一夜を、あなたはこの“踏み絵”をどうする
 歌・五木ひろし／契り
 歌・ボブ・ディラン Bob Dylan / Like A Rolling Stone
 この二つの歌の共通点は何か？

円了のホームページ：www.enryo.jp

